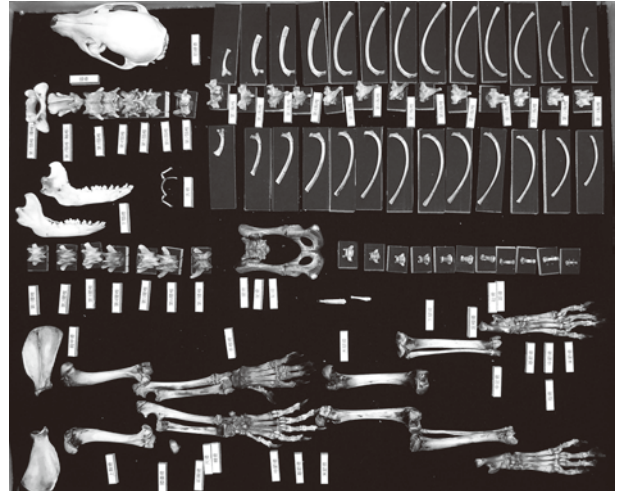


駿河ほねほね団活動報告

駿河ほねほね団



骨格標本を作製する駿河ほねほね団



並べられたタヌキの骨格

駿河ほねほね団は静岡県自然史博物館ネットワークの会員によって結成された標本作製・整理をおこなう団体です。これまでに本誌第35号と第38号に活動の一部を掲載してきました。本号からは定期的に活動報告をおこない、動物の骨格についての知識を深め、多くの方々と共有していけたらと考えています。現在のメンバーは佐々木彰央、石川章子、川森文彦、榊原英幸、高山達子、徳田大輔、本多佐おりを中心としており、2014年10月19日(日)、11月5日(水)、16日(日)に実施しました(図1)。

10月19日と11月5日に対象とした動物はタヌキのオス1頭です。タヌキは頭胴長44cmの幼獣で、頭蓋骨は10cmでした。全ての骨格を残すことを目的として作成したため、実施日以外にも、仕事の合間に作業を行い、完成するまでに約1ヶ月間もかかりました。

その後、高山さんが中心となり個々の骨に名前をつけ、骨格を並べる作業を行いました。その際に、タヌキの骨の名前を調べるのに二ホンジカの骨の名前を参考にしました。しかし、頸椎から名前を付けて並べていくと、二ホンジカの腰椎は第1～第6と書かれているのに、タヌキの腰椎は一つ余ってしまいます。そこで「骨の図鑑(斜里町立知床博物館出版)」で調べてみると、キタキツネの腰椎が第7までである事がわかり、同じイヌ

科のタヌキも第7腰椎までだと分かり安心しました。なお、タヌキの頸椎(7椎)、胸椎(13椎)については二ホンジカと同じでした。ちなみに、ゴマフアザラシの腰椎は5椎までとのことでした。

11月16日に対象とした動物はヒメネズミのオスとメス2頭です。ヒメネズミの頭胴長と尾長はそれぞれ、オスが78mmと91mm、メスが77mmと92mmで、胴より尾が長いというヒメネズミらしい体型をしていました。頭骨最大長はオスが25mm、メスが24mmでタヌキの幼獣の1/4のサイズでした。

参加者たちは2頭のヒメネズミの頭骨標本と仮剥製に取り組み、細かく繊細な骨格に悪戦苦闘しながらも器用に標本を完成させていました。

今後も月1回の開催を目標として、今回のタヌキの骨格標本と対比する形で、ハクビシン等いろいろな種類の骨格標本作製し、骨の形状の違いが理解できるような標本箱を作っていきたいと思っています。また、しばらくは団員募集をせずに、ミュージアムオープン後に体制を整えていく予定です。

最後になりましたが本活動に対して標本の提供など多大な協力をしていただいているJAしみずの荒木 逸氏に心より感謝しております。